

# 67



## 市民憲章

り

たが六供町に引越して1年半ほどになる。六供といえば、細い路地が入り組み、この道を歩けばどこに行きつくだらうと、迷いこんでしまった不安とそれを楽しむ感覚が味わえる、岡崎にとってとても大切なまちだ。

その六供を歩いていて、もう一つ大切な存在に気がついた。市民会館の脇に佇む市民憲章の石碑である。「わたくしたちは、恵まれた自然と輝かしい歴史にはぐくまれながら・・・」から始まり、5条から成る憲章は、「市民」とは何か、市民の原点と責務を思い起こさせるものだ。

市民活動の支援を担う、りた。市民会館は取り壊さず、これからも役割を果たしていくことが決まった今、今年も市民が市民としてあるべく、六供を起点に取り組んでいけたらと思う。

深田 賢之

# 探す。向き合う。創り出す。



まちにある特別なもの。それはそのまちに住んでいる人やお店の個性であったり、豊かな自然や景色、そうしたものに関連する社会活動であったりと様々。それらは、優れたものの場合もあれば、時として負の要素を含んでいるものや否定的なことも共存している。まちの特別なものは何かを探す。そしてこれまでの先入観から離れ、別の視点や別の人たちと一緒に向き合う。それらを新たな価値として創り出していくことをこれからはじめていこう。

## 生活芸述

最後に選択した商品や行為はどのようなものであっても、その結果に至るまでのプロセスの中で生まれた個人の価値観への気づきや意味を、一つの物語としてステイトメント（表現）する。まちづくりは「生活芸述」の視点から始まる。



### ルール

いつ何のために誰がつくったものなのかさえも知らないルールが世の中に無数に存在する。

ルールは必要ときに生まれてくるもので、はじめからあるものではない。他の誰かが決めるものでもなく自分たちできめていくものでありたい。

(Y)

100年後の歴史をつくるのは、

これを読んでいるあなた。

そして、わたしたち。

置き忘れてきたものを探しに、

足元にある大切なものを探しに、

未来につながる希望を探しに。

### 現代×創造＝未来の常識

法律や条例、作法というお堅いものから、ファッションや言葉遣いなどの流行的なものまで、いわゆる世間一般の「常識」がつくられてきた。

社会変化が著しく、価値観も多様化する現代において、「常識」は変動し、今を生きる自分たちが未来の「常識」をつくりだしていく。

自分が暮らすまちも同様に、今を暮らす人たちの手によってつくられるまちは、未来の人たちにとっては、当たり前のようにある「常識のまち」となる。その「常識」を創造的なものへ転換し、ここに暮らす人たちの価値感が満ちている「常識のまち」を創りだそう。

(Y)

### 物語が生まれるデザイン

NPOの社会活動や寄付活動の促進ツールとしての『デザイン』について触れてみたい。

こうした公益的活動やその成果は可視化されにくいことが多く、逆にその部分をうまく表現できれば、もっと多くの人にその想いを届けられる可能性が生まれる。

これから必要とされる『デザイン』とは？

一方的な情報伝達としての機能ではなく、発信する側の伝えたい想いやその背景、存在意義や価値をひとつの物語として詰め込まれたもの。

昨今注目されている活動や商品の中には、こうした物語がうまく描かれ

ていて、受け手にしっかりとその思いが届けられているものがある。そうしたものを参考に自分なりの物語をつくっていききたい。

ただ、創造的な物語を“0”から生み出すことはそんな容易ではない。誰かに教わるよりも自分に見合ったものを探し出すことから始め、それを盗むのではなく自分なりに写してみる。

これも『デザイン』の一つだと信じて。

(Y)



### stock renovation

この地で暮らす人々の『活動』という資源をマッチングしてきた。最近よく接するものとしては、『動産（商品、家財、資金）』と『不動産（土地、建物）』がある。

これらの資源を新たな活かし手につなぎ、再び活かしていく循環装置を、Litaとして構築していくことに着手していきたい。

(Y)

### stock/ストック

▶ 地域で暮らす人々、地域にある建物、場所、資金、ものなど。

### renovation/リノベーション

▶ 視点や方法を変更して、そのものが持つ潜在価値を再発掘したり価値を高めたりしながら活用、再生すること。

